



# モエワ★カムイ

NO.

# 69

●モエワ・カムイはアイヌ語で「エンタラシ」のことです。

FEB 2005



あさひやまどうぶつニュース  
ASAHIYAMA ZOO NEWS

もくじ

シリーズ  
「ぼくは動物大使」  
その30 ひげと頭巾が美しい  
ブラッサグエノン  
2. 3

特集  
ようこそあざらし館へ!!  
4. 5

飼育研究レポート  
動物園事情  
6

VETニュース  
7

できごと  
飼育動物数  
編集後記  
8

ブラッサグエノン  
*Cercopithecus neglectus*



ほくは、

# 動物大使



## その30 ひげと頭巾が美しい ブラッサグェノン

### ブラッサグェノン

*Cercopithecus neglectus*

アフリカのカメルーンからエチオピア、ケニアからアンゴラまでの湿地帯、川辺林など、水の近くに生息。地上5mほどの高さですごすことが多い半地上生活者。果実、葉、昆虫も食べる。頭巾のように左右にとがったオレンジ色の毛と、白くて長いあごひげが特徴の美しいサルである。

### 旭山のブラッサファミリー

'94年からペアで飼育開始。  
'97年初繁殖。8年連続繁殖し、今では両親と4仔の大家族です。



### 顔

オレンジ色の頭巾、  
真っ白なひげ。  
水戸黄門みたい。

### 食物

果実が主食。  
葉やキノコ、  
昆虫なども食べる。

### 成長

オスは5~6才、  
メスは約4才で性成熟。

### 「混群」

アフリカの熱帯雨林では、グェノン類を含む複数の種がいっしょに遊動し採食する「混群」の形成が見られます。それぞれの種で食性が重なるので、食物をめぐる争いが起こることもありますが、大型のグェノン・コロプスは樹上の葉、中型の種は果実、小型の種は昆虫や種子など、主食や採食する高さをずらすことで競争をさせています。混群を作ることで、天敵や食物の発見、なわばりの防衛などさまざまな面でメリットがあり、敵を見つけると警戒音の大合唱が鳴り響くこともあります。

ところが、ブラッサグェノンだけは唯一混群を形成しません。彼らの行動域は4~10haとほかの種に比べて狭く、1日の移動距離も400~500mと短く、狭い範囲で集中的に採食し、できるだけ外敵に見つからないよう行動します。ブラッサグェノンの選んだ道は「目立たず、静かに、ひっそりと」なのです。

### サルの分類

サルの仲間(霊長目)は「原猿」と「真猿」の2つに分けられます。さらに真猿は中南米にすむ広鼻猿類(新世界サル)とアジア・アフリカにすむ狭鼻猿類(旧世界サル)に分けられます。

広鼻猿類はオマキザル科とマーモセット科の総称で、字のとおり鼻の幅が広く穴が外側を向いています。狭鼻猿類は逆に鼻孔が狭く尻だこがあるのが特徴です。アフリカの森林に生息する、尾の長い「グェノン」くびれた胃をもち、ほお袋をもたない「コロプス」アジアに広く分布し、がんじょうな体つきの「マカク」(ニホンザルはこの仲間)などのオナガザル上科と、テナガザル・オランウータン・ゴリラ・チンパンジー・ヒトのヒト上科に分けられます。

### 体

オス8kg、メス4.5kg。  
グェノン類では最大。  
性差が大きい

### 群れ

オスメスのペアと  
子どもの小集団で  
生活。

### 尾

黒くて長い。

### ブラッサグェノンの分布



### 旭山ZOOのサルを 分類してみよう



ワオキツネザル 原猿 ジェフロイクモザル 広鼻猿



ブラッサグェノン 狭鼻猿 アビシニアコロプス 狭鼻猿



ニホンザル 狭鼻猿 シロテテナガザル 類人猿

### 旭山ZOOの冬のサルの仲間

現在、旭山動物園の霊長目は、サルアパートに5種、さる山のニホンザル、それにチンパンジー、オランウータンの全部で8種います。では、彼らの冬の暮らしはどんなでしょう？

ニホンザルは、現存するサルの中(ヒトは除く)で最も北に分布し「北限のサル」と呼ばれ、寒さに強いので冬でも元気に外で飛び回っています。

ニホンザル以外はみんな寒さが苦手で、暖房の入った部屋ですごします。特別に暖かい日は短い時間、外に出すこともあります。中でもチンパンジーは、それほど寒くないはずなのに、背中を丸めつま先で歩いて「ほら、こんなに寒いんだから早く部屋に入れてくれよ！」と寒そうな芝居をしたりします。

空中散歩でおなじみのオランウータンも、冬は見られませんでした。今年、室内放飼場が完成し、冬でも会えるようになりました。樹上生活者である彼らの行動が、じっくり観察できる施設です。ぜひ、見に来て下さいね！



おらんうーたん館

# 特集 ようこそあざらし館へ!!

昨年、6月にオープンした「あざらし館」。  
 マリンウェイを悠然と通っていくアザラシたちに歓声が上がります。  
 そんな、あざらし館が初めての冬を迎えました。  
 今回は、あざらし館の魅力と冬ならではの見どころを紹介します。



まずは入口



ひっこし風景



大水槽です



アザラシを知ろうパネル



旭山のゴマちゃんたち  
似顔絵



魚もいるよ



ミスクラゲ いやされます



マリンウェイ通過中



マリンウェイで土俵入り?!



マリンウェイでフワフワ



カニもいるよ



窓からのぞいてみよう



サケ展開催中



あべひろし氏の壁画



北海道で見られるアザラシ  
5種のレプリカ



出口はこっち



外からパチリ



船も浮かんでる



船に乗ったりして

## あざらし館スタッフ

気軽に声をかけてね



中田真一



白木雪乃



渡辺 泉

## もぐもぐタイム 11:40



解説 & カムイのジャンプ

## 冬のみどころ



氷が張ればこんな光景が...



冬は繁殖期。今年はどうかな?



もっと近くに! 只今トレーニング中



## ナナの拒食症

2004年10月、旭川市で「第14回ソウ会議」が開催されました。ソウ会議とは日本全国のソウに関わる関係者が集まり、飼育方法や新たな取り組み、病気例などを発表する会議です。さまざまな発表がありとても勉強になりました。

ある園館の発表で「昔、調教されていたソウは、何年もやってなくてもすぐ思い出してくれるのでやり易かった」という発表がありました。ソウは脳が発達しており、特に記憶能力に優れ1度覚えたことはそう簡単には忘れない動物です。実は当園のナナも小さい頃調教されており、鼻や足を上げたり人を乗せて歩いたりしていました。もう20年も前のことです。

会議から数日後の朝、「きっとナナも少しは覚えてるべし」と思い、ナナの記憶力を試そうと軽い気持ちで「足上げ!」と試してみました。するとナナは、左前足をヒョイと上げてジューツとしてくれました。「おお! さすがナナ、やっぱり賢いわ」と一人で感動し、大好きな果物を手に取り「はい、もういいよ ほれ、ごほうび」とあげようとするのですが、ナナはしばらく足上げのポーズをやめず、どこか遠くを見て考え込んでいました。その瞬間からナナの態度ガラッと変わりました。外に出す時も、いつもなら自分で扉を開け、勢いよく外に飛び出し置いてある餌を夢中で食べ始めるのですが、ナナは寝室から出ようとせず、何かに怯えているようで、大好きなバナナも食べません。さらに、号令をかけていないのに左前足→右前足→左後足→右後足と順番に上げだし、また考え込んでいます。

それから2日間、ナナは全く餌を食べてくれませんでした。ソウは1日の4分の3は採食に時間を費やします。そのソウが2日も食べないなんてかなりの重症です。獣医たちは内臓の病気を疑いましたが、私には「あの一言がナナに記憶をよみがえらせ、精神的なショックをあたえてしまった」としか考えられませんでした。

その後、3日目ぐらいから少しずつ餌を食べるようになり、5日目で完全に元の食いつき坊ナナに戻ってくれました。ホッとひと安心です。

脳が発達した高等な動物は、こちら側の言っていることを理解し、気持ちまでも察します。一見扱いやすそうですが、賢さゆえに「安易な付き合いや言葉はかけられない!」そんなことを教えてくれた出来事でした。

(中田)



## 動物園事情



### 普通の動物の繁殖計画

8月18日、キリンのタミオが死亡した。旭山動物園へやってきたのは、ちょうど20年前、彼が1歳の時だった。21歳の彼は沖繩にいる24歳のオスに次ぐ長寿だった。人間に比べてずいぶん短命と思うだろうが、キリンで20年以上生きれば、天寿を全うしたと考えてよい。この旭川で20年もの長い間生活し5頭の仔を繁殖したタミオの冥福を心から祈っている。

キリンについては、亜種がいくつかあり血統登録はされているが、いわゆる希少動物とされてはいない。これまでも国内の動物園で繁殖した個体が需要は満たされていた。数が少なく困るという動物ではない、言ってみれば普通の動物なのだ。ところが、タミオの後に旭山動物園へ迎えるキリンが簡単には見つからない。

これまで、キリンの繁殖といえば東京都多摩動物公園で、どんどん繁殖させていた。多摩では、キリンを群れで飼育し、生まれた子どもを他の動物園に出さなくても十分飼育できるスペースを用意している。一方、多くの動物園では、2~3頭を飼育できるスペースしか用意していない。旭山動物園もその一つである。そういう動物園では万が一の事態が起きると、キリンを群れで飼育している動物園に頼んで、分けて貰っているのだが、最も期待されている多摩で、成獣のオスが死亡してしまい、繁殖が止まってしまったようだ。

他にもキリンを繁殖実績のあるいくつかの動物園に、連絡を取ってみて驚いた。普通の動物であったキリンが見つからない事態となっていた。希少動物の繁殖に関しては各園館が協力して懸命な努力を積み重ねているが、ふと気がつく、動物園で飼育する動物が不足する事態になってしまうことの前兆ではないのだろうか。普通の動物であっても野生個体の導入は考えられないことに希少動物との違いはない。

このような動物は、キリンばかりではない。カバ、ライオンなど、増えすぎるといった繁殖制限しているものも多い。旭山動物園で繁殖した4頭のライオンも、3頭が国内の動物園に移動したが、残り1頭は移籍の機会を今か今かと待っている。しかし、全国の動物園がライオンの繁殖を止めてしまった十数年後、高齢化したライオンが繁殖再開に応じるわけもなく、最悪の事態は国内ライオンが絶滅してしまうということだ。実は、ユキヒョウのような希少動物でさえ、繁殖制限を余儀なくされているのだ。制限することは簡単だが、再開する難しさに直面するのはこれからだろう。動物園では、展示動物を確保するための繁殖計画をも真剣に考えていかねばならない時が来たと言えるだろう。



## 傷ついて動物園に運ばれてきた野生動物—その2：運命は…

人間が好き勝手に暮らしているうちに、母なる地球は野生動物にとってだんだんとすみにくい星になってきています。私たちの身近でも、人間が原因でたくさんの野生動物が傷ついたり病気になって、中には絶滅していくものもあります。旭山動物園では、毎年150件もの野生動物を保護し、野生復帰と個体の有効活用を目指しております。今回は、彼らの運命についてお話します。

まず、当園ではカラス、エゾシカやドバトは保護しません。その理由は、いずれも農作物の被害を起し、他にもカラスは人間・家畜への攻撃やゴミあらし、エゾシカは森林破壊、ドバトは糞公害など人間の生活に有害な影響を与えるとして毎年駆除されている動物だからです。駆除される動物のけがや病気を治して野生に戻しても、飼育治療中に人をますます恐れなくなって、さらに問題を起すことが予想できます。例えば、人なれしたカラスは人を襲う危険性があります。ですから、駆除が必要と判断されている動物をわざわざ治して野生に戻すことはしません。また、ドバトはアライグマと同じように元々北海道に生息していた動物ではなく、人間が外国から連れてきた外来動物でもあります。人間の生活への悪影響に加え、先にすんでいた野生動物と競争して追い出すこともあります。日本産野生動物の保全を目指している当園では、目的とまったく矛盾する“外来動物を野生に戻す”行為はしておりません。ただ、これら有害鳥獣や外来動物の問題は、動物が悪いのではなく、人間が作り出しているということをつけ加えておきます。

さて、保護された野生動物の運命は、死亡、安楽死、飼育継続、野生復帰のいずれかです。5年間の調査では、死亡58%（安楽死9%含む）、生存42%（飼育継続30%、野生復帰12%）でした。選ばれしものとして野生に帰って行けるのは、ほんの1割程度です。当園では、基本的に“保護動物は自然界からはじかれもの”と考え、野生復帰を目指すためのハードルを高く決めています。治療終了後にハンデが少しでも残ってしまった動物を、希望をこめて野生に放すことはしません。本来、野生動物が人間の手に捕まった時点で、その命は一度終わっています。当園では、一度は命を失ったはずの1頭1羽の再スタートを、飼育を続けて、『来園者に見てもらい、保護原因を伝え、野生動物の悲しい現状を知ってもらった上で、何とかしたいと感じてもらおう』ことの方が、実は自然界にいる他の仲間の野生動物を守るためにもっと大切なことだと考えています。ただし、希少種になってしまうと、1頭1羽がその種の存続に関わってきますので、事情は異なります。

さらに、野生に放せなかった3割の動物は、飛べなくなった鳥でも繁殖を目指すことができますし、さまざまな研究や教育にも役立てることが出来ます。保護された1頭1羽の野生動物から、体の構造、生理（発情周期や血液データ）や生態などさまざまな情報を得ることができます。当園では、保護動物の血液検査や寄生虫検査をして、データをコツコツと蓄積していつか。これらの知識は、生態系の野生動物を保全するために役立つこととなります。また、身近にいる野生動物を間近で見てもらい、触ってもらうことで、彼らのことに興味をもってもらえたならば、その1頭1羽は仲間の代表としてメッセージを伝えたこととなります。つまり、彼らの運命をになうこともたちの動物学習や環境教育などに重要な役割を持っているのです。日本には、野生動物を専門的に救護するための施設とスタッフの数が全然足りません。動物園での救護活動は片手間で、将来は日本全体でよりしっかりと取り組んでいくべき課題でしょう。そのために、これからも動物園は伝え続けていきます。

(獣医師 福井)



# 主なできごと

- |        |                                     |        |   |
|--------|-------------------------------------|--------|---|
| 6月24日  | ホッキョクグマのカンゾー<br>尿焼けによる皮膚炎の治療        | 11月2日  | ペンギン会議参加報告 (田中)<br>飼育勉強会 動物園の歴史 (小菅)<br>勉強会のための勉強会 (福井) |
| 6月26日  | ライオン2頭<br>南紀白浜アドベンチャーワールドへ出園        | 11月8日  | ライオン1頭到津の森公園へ出園   |
| 6月27日  | 飼育勉強会<br>クワツグミの抱卵温度について (木樽)        | 11月20日 | 入園者数1,247,395人<br>北海道の記録30年ぶりに更新<br>飼育勉強会               |
| 7月20日  | キングペンギン1羽孵化                         | 12月17日 | 飼育勉強会<br>牧場ガイド「チンチラ」 (佐藤)                               |
| 7月22日  | キリンのタミオ 衰弱により転倒                     |        |   |
| 7月24日~ | 甲虫展                                 |        |   |
| 8月1日   |                                     |        |   |
| ~3日    | サマースクール                             |        |   |
| 8月10日  | エミュー3羽上野動物園より来園                     |        |   |
| 8月18日  | キリンのタミオ死亡(老衰)                       | 12月21日 | カルガモ10羽井の頭自然文化園より来園                                     |
| 8月19日  |                                     | 12月22日 | カピバラ2頭九州自然動物公園へ出園                                       |
| 21日    | ミシシッピーアリゲーター各1頭死亡<br>(闘争)           | 12月24日 | アムールトラ採精(1回目)   |
| 8月22日  | 飼育勉強会<br>旭山動物園の飼育展示係 (坂東)           | 1月15日  | おらんうーたん館オープン  |
| 9月1日   | チンパンジーのラブ<br>那須モンキーパークへ出園           | 1月17日  | アムールトラ採精(2回目)   |
| 9月19日  | ホッキョクグマのカンゾー死亡(老衰)                  | 1月19日  | カピバラ2頭神戸市王子動物園へ出園                                       |
| 9月20日  | 夏期入園者数1,000,000人達成                  | 1月24日  | 飼育勉強会<br>サイの給餌量と排便量、補水量について (阿部)                        |
| 9月21日  | 飼育勉強会<br>傷病野生動物保護と個体有効活用について (福井)   | 2月5日   | こども牧場について (三神)<br>オオワシ環境省と協力し放野 翌日回収<br>野生復帰の難しさを改めて実感  |
| 10月17日 | わくわくゲーム大会<br>夏期開園終了夏期入園者数1,225,931人 | 2月18日  | 飼育勉強会<br>キングペンギンの繁殖について (田中)                            |
| 10月19日 | ホッキョクグマのルル来園                        | 2月19日  | 飼育勉強会<br>牧場ガイド「シマリス」 (井上)                               |
| 11月1日  | 飼育勉強会<br>第14回ソウ会議の報告 (中田)           |        |   |
|        |                                     |        | トナカイ1頭死亡  |

## 飼育動物数

(平成17年2月末現在)

哺乳類	47種	213点
鳥類	93種	562点
爬虫類	11種	32点
合計	151種	807点

## 編集後記

あざらし館がオープンしてからの旭山動物園の様相は想像を超える、いや想像もしなかった渦の中に巻き込まれたような状態でした。来園者数、マスコミの取材数、視察の数…僕たちは来園者数の増加を求めてやってきたわけではなく、

結果としてこうなったのでいまだに戸惑っています。いつの間にかみる側からみられる側になって、これからが真価を問われるのでしよう。媚を売ることなく今までとおりのスタンスでやっていかなければと自分自身に言い聞かせています。

もうすぐ  
春ですよ!



## モユク・カムイ No.69 平成17年2月28日

発行所 旭川市旭山動物園 〒078-8205 旭川市東旭川町倉沼 ☎0166-36-1104  
 発行 小菅正夫 <http://www.city.asahikawa.hokkaido.jp/files/asahiymazoo/index.html>  
 編集委員 中田真一・倉山 淳・坂東 元  
 印刷 谷川印刷株式会社 〒070-0831 旭川市旭町1条4丁目 ☎0166-51-0653